

植物 85

奄美大島と徳之島の固有の植物

奄美大島と徳之島の面積は、両島合わせても日本全土の面積の 0.26% です。その面積の中に、奄美大島では日本全体の維管束植物の 18.7% (1,307 種)、徳之島では 13.7% (957 種) という多くの種が生育しており、奄美大島や徳之島だけに生育する固有種も多く確認されています。そこで、今回の自然だよりでは、奄美大島と徳之島の固有の植物を紹介します。

■ アマミエビネとトクノシマエビネ



アマミエビネ
ラン科

アマミエビネは、奄美大島高地の照葉樹林の林床に生育する固有種です。花期は 3 月下旬から 4 月上旬で、白色や淡い桃色の可憐な花をつけます。

トクノシマエビネは、徳之島の天城岳にのみ生育しています。3 月から 4 月に咲く花は、茶褐色の花被片と白い唇弁しんべんから構成されます。また、分類学的な位置付けが未だに定まっていない植物です。

両種とも、園芸用として過度な採取が行われたり、森林伐採により生育場所が少なくなったことから絶滅が危惧されています。



トクノシマエビネ
ラン科
(画像提供：環境省奄美生物保護センター)

■ オオバカンアオイ



オオバカンアオイ
ウマノスズクサ科

奄美大島と徳之島にのみ分布します。葉の長さが 10cm 以上になる大型のカンアオイです。12 月から 1 月にかけて緑紫色の花をつけます。昨年 11 月に徳之島を訪れた際には、地表近くにつ

ぼみをつけていました。カンアオイ類は、固有種が多く存在し、奄美大島では 9 種、徳之島では 3 種が確認されています。

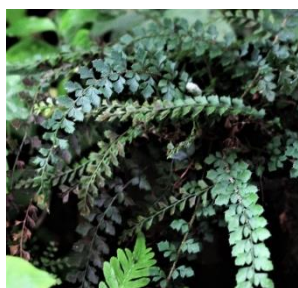
■ オオアマミテンナンショウ



オオアマミテンナンショウ
サトイモ科

「アマミ」という名称が入っていますが、徳之島の石灰岩地帯の林床にのみ生育します。葉の一部である仏炎苞ぶつえんほうに包まれた花を 1 月頃につけます。仏炎苞の色が緑色で、葉よりも低い場所につくため、花は目立たず楚々とした印象を与えます。

■ アマミデンダ



アマミデンダ
オシダ科

溪流沿いの湿った岩上に生育する奄美大島固有のシダ植物です。葉の長さは 3 ~ 5 cm で全体的に小型です。「デンダ」とは、シダの古い言い方の 1 つで、奄美産のシダという意味で名前が付けられたといわれています。

今回紹介した植物の他、奄美大島と徳之島に生育する植物の約 1 割が絶滅のおそれがあるといわれています。原因の 1 つに、外来種の侵入が挙げられます。昨年、徳之島を訪れた際に、外来種のアメリカハマグルマと在来種ハマグルマが隣接して生える場所がありました。一度侵入した植物を駆除することは大変な時間と苦労が必要となります。様々な植物が生育する豊かな自然があることを知り、大切にしていきたいものです。

出展：世界遺産一覧表記載推薦書